歯医者で働く私の、『マウスピース矯正生活』

～事務長が患者になって気づいたこと～（アライナー３０／３６）



ヒントを探す旅

「これやっといてー、これ出来てないよ」

「無理です」

果たして、その「無理」は、試行錯誤して出た答えなのだろうか？

気合と根性で解決しようとしても長くは続かないから、その「無理」を払拭するためにシステムを改良するには何が出来るかを探す旅。

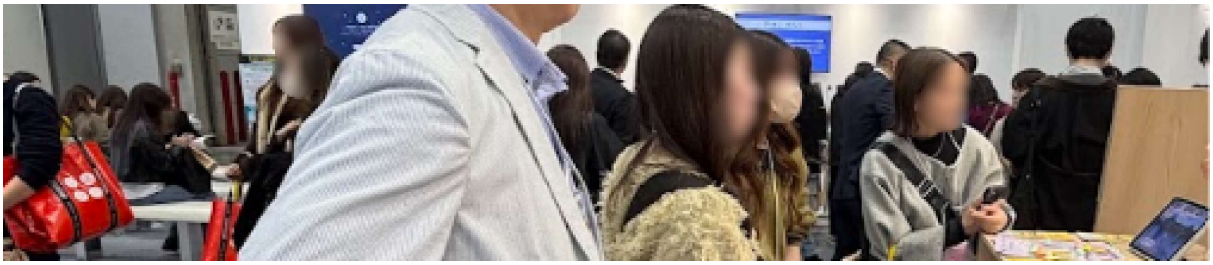
「見える時代」へ

そんなヒントも転がっていないかなぁと見つけるべく、展示会やセミナーへの参加に集中した怒涛の東京往復月間でした。

足を運んだのは、AI・DX系のEXPO、東京デンタルショーに行ってきました。



最新機器や材料が一堂に会する、業界のイベントへ。



同行スタッフが熱心に聞いておられる。

別の日には、歯医者の集まりで発表を聞く機会もありました。



そこで発表されていたお話の中で気になったのが、歯科領域におけるAR（拡張現実）の進化です。

例として、根管（歯の根の中にある管）の形状や、上顎洞の位置が３Dデータとして実際の口腔内に重なって可視化される。治療中の動きに合わせてトラッキングされ、アシストとして役立つ世界。

「見えない」からこそ、少なからず経験と勘に頼っていた部分が、技術の工夫で「見えるもの」に変わっていく。

「無理」と思われていたことが日進月歩で進化していく様子を見て、時代の進化、AIのスピード感ってやっぱりすごいなと。



電話越しに迂闊な癖

お話は一転。日常業務で取引先と電話をしていた時のこと。

「あれ、歯でも抜いたの？なんか口に入ってる？」

あっ…。思い当たる節はありました。

電話中に無意識に舌でマウスピースの縁をなぞったり、押し上げたりしてカパカパ・モゴモゴしていたのかも。

アライナー３０枚目。毎日、着けたり外したりを繰り返すうちに、装着のコツだけでなく、変な癖までいまだに染み付いている。



自分では普通に話しているつもりでも、電話越しの相手には違和感として伝わるんですね。

そりゃそうだ。

諦めない工夫が、未来を作る



マウスピースを装着するのが痛ければ痛くない付け方を模索する。

マウスピースがはまりづらければ装着する順番を考える。

癖が発覚すれば、直す工夫をする（予定）

自身が直面する壁をブレイクスルーするヒントは、周りを見渡した時にきっと見つかる。

東京出張で聞いたARの技術も、きっと同じ。

「見えないから無理」で終わらせず、「どうすれば見えるようになるか」を考え続けた方々が作り上げたもの。



無理と諦めずに、工夫する。

イノベーションって、すごい。